

加齢黄斑変性症



- 年齢を重ねるとともに網膜色素上皮の下に老廃物が蓄積してきます。それにより直接あるいは間接的に黄斑部が障害される病気が加齢黄斑変性です。
- 放っておくと、症状がどんどん進行していきます。
- できるだけ良い眼の状態を維持するために、早期発見、早期治療が非常に大切です。
- 原因とされているのが、「加齢、喫煙、太陽光、食事、遺伝」です。
- 初期には症状に気が付かないことがあります。目に異常を感じていなくても、眼科を受診するようにしましょう。



加齢黄斑変性症の主な自覚症状

*変視症

中心部がなんとなく、グニヤリとゆがんで見えます。直線や、規則正しく並んでいるタイルなど見るとゆがんで見えるので、分かりやすいでしょう。

*中心暗点

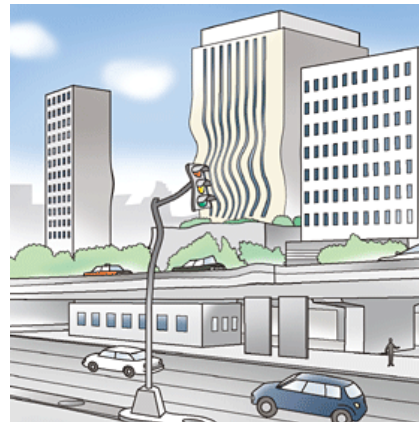
物を見ようとすると、真ん中がぼやけたり、暗くなったりしてよく見えなくなります。字を読もうとすると、真ん中に来る字が読みにくくなります。

*視力低下

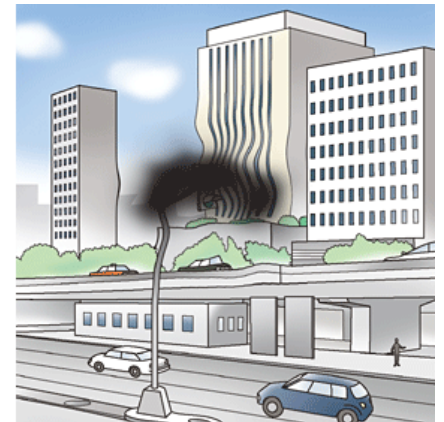
加齢黄斑変性が進むと、視力全体に影響し、視力が低下します。この場合、メガネやコンタクトレンズで矯正しても、あまり効果がありません。

*色覚障害

加齢黄斑変性が進行すると、色も見分けられなくなり、黒、灰色、白にしか見えなくなります。



中心がゆがんで見える



視野が欠けて見たい部分が黒くなる

光干渉断層計(OCT)検査とは？

網膜は層構造になっており、その層構造を断面的に観察する検査です。

網膜やその下の新生血管などの状態を立体的に把握することができます。

黄斑変性の早期発見ができます。

OCT検査が有用とされる代表的な疾患

加齢黄斑変性症・黄斑円孔・黄斑上膜・
黄斑浮腫・糖尿病性網膜症・
糖尿病性黄斑症・網膜静脈閉塞症・
網膜前膜・中心性漿液性脈絡網膜症など

